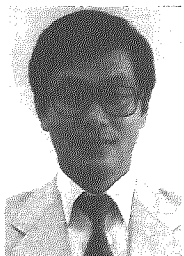


世の中の動きは人間の営み「記者の目」が記事の基本

新聞



新潟日報巻支局長 支局長 佐藤和正さん

*広報くろさきについて…私はセンスを高く評価してらんですよ。行政広報の基本は町が伝えなければならぬことを掲載すること。すべてのページが読まれるべきものを書いてほしいと思います。

う

問



NHK新潟放送局
チーフ・アナウンサー
島村喜兵衛さん

真剣に番組を作っています。厳しくプロデューサーを見てください

テレビ

新聞やテレビなどマスコミがすべての事件や事故などを取り上げることは不可能です。紙面や時間の都合で報道されないニュースもあると思います。

「それは新聞やテレビが生まれたいときから持っている宿命みたいなものです。選択の良し悪しは別にして、テレビと新聞、あるいは各新聞を見比べれば、ニュースが選択されていることがわかると思います。」

——選択する基準は。

「いつの時代でもぼう大なニュースがあります。それをどう選択していくかは最も大切なことです。やはり『記者の目』で選ぶほかはありません。小さな出来事でもそれをどうとらえるか、読者は何を求めているのか、時代はどう動いているのか、自らが常に記者の目を養っていかなければいけません。十ある事件のうち七つを記事

——新聞が伝えたいことが読者に伝わっていますか。

「新聞が伝えたいことが読者に伝わるとはいいですね。見る人によって、お叱りを受けることがあります。放送の時間は限られているので、一日が二十四時間しかないと同じように、放送時間ももっと限られています。世の中で起きているすべてのことを放送できません。一人一人のものの見方、考え方も違います。時代は常に動いています。情報の質量ともに大きく変わっています。ですから放送する内容は十分に検討する必要があります。」

——テレビへの批判もあります。

「私も個人的に自分の家でテレビを見てるときなど、安易だと思ってしまう。」

——新潟にはテレビ局が五、衛星

——「取材させてもらう人の価値を判断はしません。価値を判断するのは読者であって我々ではありませんし、人の価値という言い方はおかしいと思います。」

——人の価値はみんな同じでも、

「それはどうでしょうね。それは記事によっても読者によっても違うでしょう。」

——また、記者が伝えたいことが取材された人が言いたいことが違うこともあると思いますが。

「インタビュウの場合、相手がおもしろいと思って話すこととこちらがおもしろいと思って聴くことが違うことがあります。そのあたりが難しいですね。」

——記者として心がけていることは何でしょうか。

「世の中の動きは人間の営みが根底にあります。そこに住む人々の悲しみや怒り、喜びが基本だと思っています。できるだけ多くの人と出会いたいと思っています。」

——新聞をどう読んでほしいですか。

「信頼してほしいし、親しみを持って楽しく読んでほしいですね。」

——「信賴してほしいし、親しみを持って楽しく読んでほしいですね。」

「違うでしょうが、知ってほしいことを伝えていくつもりです。放送に限らず、個人のつきあいでも人に百分の内容を伝えるということとは不可能に近いでしょう。が、百分を目指しています。」

——ニュースだけでなく様々な番組があります。

「NHK新潟放送局ではどのような企画や内容を決めているのでしょうか。」

化

社

報

*広報くろさきを読んで…市町村の広報紙を拝見しますが、どういう目的で発行し、何を伝えたいのか、首をかしげたくなるものもあります。黒埼町の広報は読ませる工夫はしていると思います。タウン誌のような味わいは、地域性を意識しているのでしょうか。

情報を選ぶのが大変な時代。新潟を動きのある町にしたい

タウン誌

「局にはアナウンサーが八人、ディレクターが十一人、記者は十六人います。番組の企画はたくさん提案の中から徹底的に討論しあって決まります。みんな自分の提案を通すために必死ですよ。全国放送は更に厳しい競争です。また、イブニングネットワークは二ユーデスタクを中心に毎週提案会議があり、毎日検討会をして内容が決まられていきます。NHKの放送は、真剣で厳しい中から生まれる」と考えてほしいと思います。

——テレビやラジオを見聞きする上で、知っておいてほしいことはありますか。

「なぜあれが放送されないのか、タウン誌を出す意図や目的は何でしょうか。」

「社（博進堂）としては一つの文化戦略と位置づけています。そして『新潟の暮らしがおもしろい』と読者に提案していきたい。『創造』ということを考えています。特集で取り上げたものは、夕日キヤンペーンやJR新潟駅など、今、新潟で生まれているものです。新潟を動きのある町にしたいと思っています。」

——「人間」をたくさん取材していますが。

「人がいちばん『情報』を持っていると思うんです。多くの人間の生き方や考え方を紹介していきたい。魅力的な人間を『発見』したい。」

——「取材させてもらう人の価値を判断はしません。価値を判断するのは読者であって我々ではありませんし、人の価値という言い方はおかしいと思います。」

——人の価値はみんな同じでも、

「それはどうでしょうね。それは記事によっても読者によっても違うでしょう。」

——また、記者が伝えたいことが取材された人が言いたいことが違うこともあると思いますが。

「インタビュウの場合、相手がおもしろいと思って話すこととこちらがおもしろいと思って聴くことが違うことがあります。そのあたりが難しいですね。」

——記者として心がけていることは何でしょうか。

「世の中の動きは人間の営みが根底にあります。そこに住む人々の悲しみや怒り、喜びが基本だと思っています。できるだけ多くの人と出会いたいと思っています。」

——新聞をどう読んでほしいですか。

「信頼してほしいし、親しみを持って楽しく読んでほしいですね。」

——「信賴してほしいし、親しみを持って楽しく読んでほしいですね。」

「違うでしょうが、知ってほしいことを伝えていくつもりです。放送に限らず、個人のつきあいでも人に百分の内容を伝えるということとは不可能に近いでしょう。が、百分を目指しています。」

——ニュースだけでなく様々な番組があります。

「NHK新潟放送局ではどのような企画や内容を決めているのでしょうか。」

*情報社会に関する世論調査 (昭和60年・内閣広報室)

1. 必要な情報はすぐ得られるか

| | |
|---------|-----|
| 得られる | 29% |
| 一概に言えない | 33% |
| 得られない | 28% |
| わからない | 10% |

2. 情報不足で不便だと思うことがあるか

| | |
|-------|-----|
| ある | 24% |
| ない | 71% |
| わからない | 5% |

3. どのような情報が得たいか

| | |
|---------|-----|
| ①健康・医療 | 42% |
| ②地域ニュース | 29% |
| ③一般ニュース | 26% |
| ④趣味・娯楽 | 24% |
| ⑤教育・学習 | 18% |
| ⑥買い物 | 16% |
| ⑦行政 | 14% |
| ⑧ビジネス | 13% |
| ⑨催し物 | 10% |

*新聞関係自主倫理規定

第一新聞の自由 公共の利益を害するが、または法律によつて禁ぜられていない場合を除き、新聞は報道、評論の完全な自由を有する。禁止令そのものに批判する自由もその中に含まれる。この自由は実に人類の基本的権利としてあくまでも擁護されねばならない。

第二報道 評論の限界 ①報道の原則は事件の真相を正確忠実に伝えることである。②ニュースの報道に記者個人の意見をさしはさんでならない。③ニュースの取り扱いに当たっては、それが何者かの宣伝に利用されぬよう厳に警戒せねばならない。④人に関する批判は、その人の面前において直接語りうる限度にとどむべきである。⑤故意に真実から離れたこととするかたよつた評論は、新聞道に反することを知るべきである。

*日本放送協会国内番組基準

第一章第1項一、人権を守り人格を尊重する。二、個人や団体の名誉を傷つけない。信用をそこなうような放送はしない。

三、職業を差別的に取扱い得ない。第2項一、人種的民族的偏見を持たず、宗教に關する放送は信仰の自由を尊重し公正に取り扱う。第4項一、政治上の諸問題は公正に取り扱う。第5項一、意見が対立している公共の問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにし公平に取り扱う。第6項一、報道の自由を維持し真実を報道する。二、ニュースは事実を客観的に取り扱い、ゆがめたり隠したり、またせん動的な表現はしない。第8項一、身体的欠陥などにふれなければならないときは、特に慎重に取り扱う。

*日本民間放送連盟テレビ放送基準

六十六、コマーシャルは真実を伝え社会的責任を負う。また視聴者の利益に反するものであってはならない。

*出版倫理綱領

三、文化と社会の健全な発展のために、あくまで言論出版の自由が確保されなければならない。我々は著作者ならびに出版人の自由と権利を守り、これらに由えらるる制限または干渉は、権力これを排除するとともに、言論出版の自由を濫用して、他を傷つけない、私益のために公益を犠牲にするような行為は行わない。